

森の通信

The Miyazaki Prefectural Museum

宮崎県
総合博物館だより
第4号

発行日/昭和63年7月25日

発行/宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4の4 TEL (0985) 24-2071

フランスの巨匠 デュフィ展 9月6日開幕!!

開催記念児童生徒作品展も同時に



ル・アーヴルの水の祭 一九二五

フォービズム(野獣派)からスタートしたデュフィ(1877年～1953年)は、新鮮な色彩感覚と軽妙な線により独自の画風を完成し、マチスやマルケとならぶフランスの巨匠と謳われました。鮮やかな色彩で描く競馬や音楽会の賑い、陽光に輝く南フランスの山や海、地中海の青く澄んだ空と海は、宮崎の自然を連想させます。

本展では、フランスのニース美術館などに収蔵される代表作品を中心に、油彩画、水彩画・グワッシュ、素描、テキスタイル・デザインなど104点により、生命の謳歌と躍動感に満ちたデュフィの世界を展開するものです。

会期

昭和63年9月6日(火)～10月6日(木)
午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
休館日＝9/12・16・19・24・26・10/3

入館料

大人 800(600)円
高校生 600(400)円
小中生 400(200)円

※()内は前売、団体
(20人以上)の割引料金

「デュフィ展」開催記念児童生徒作品展

県内の小中学生を対象に、宮崎の自然をテーマに描いた作品を募集します。
締切日：9月3日(土) 詳しくは、美術担当
まで (上田)

甲冑と武具 (8月7日まで展示)

最近、甲冑は単なる武具ではないのではないかと考えられているようです。もちろん、合戦時の武装具にはちがいないのですが、サムライたちと甲冑とのかかわり合いを考えると単なるものではなさそうです。というのも、古い話になりますが、永い間続いた源平の勢力争いの際(保元・平治の乱、1156年・1159年)平家の将が源氏の将をとりおさえ、短刀を首に刺そうと兜を払ってみると、まだ幼な児の武将源頼朝だったというのです。そこで平家の将も情深く、幼い頼朝は一命を救われたのでした。

こうして、たとえ幼な児とはいえ、大きな決心と覚悟でそれなりの将と判別できる甲冑を身につけて戦場へ参じたというはじめと武士の命をかけた鎧姿は、生と死の象徴のように思われます。現在、「甲冑と武具」と題して鉄肥藩、延岡藩の資料を展示しています。軍旗をつけた鎧



(甲冑と武具の展示)

をはじめ、めずらしい形の兜、戦時の陣太鼓、鎖がま、十手など、今、時代物の流行の中でこの「コーナー展示」も観覧者の静かな注目をあつめているようです。(宗像)

森のゼミナール(資料紹介)

子持家形埴輪

西都原169号墳から出土



(西都原資料館〈複製〉)

模な古墳発掘調査として、大正元年から6年にかけて行われ、全体の約1割にあたる30基が調査されました。

この子持家形埴輪は、大正元年の発掘調査で西都原169号墳(飯盛塚)から出土したものです。その後、全国各地で発掘調査が行われていますが、このような複雑な形の家形埴輪は類例がなくわが国唯一の出土品になっています。

規模は、高さ54cmで、入母屋造りの母屋を中心に左右に入母屋造りの家形埴輪、前後に切妻造りの家形埴輪の4つの小さな家が付随し総長94cmの堂々たるもので独特な形の家形埴輪の構造です。

集会場的な役割に使用された家という説もありますが、当時の首長的な存在にあった豪族の家ではないかと考えられています。

この埴輪は、国の重要文化財で、東京国立博物館に収蔵されています。(川辺)

西都原古墳群の発掘調査は、わが国初の大規

鑑賞教室に多くの入館者

●青花磁器展終わる●

中国、青花磁器の名品を集めた「上海博物館所蔵・青花磁器展」が5月20日（金）から6月19日（日）まで開催されました。

この展覧会は、上海博物館所蔵品から元・明・清時代の青花磁器90点を景德镇窯産出の名品により紹介したものです。本県にも、各地に窯跡があり多くの陶磁器が残っていますが、他県に比べるとその数は少なく、県民が陶磁器の名品に接する機会も多くありません。

本展のような、中国青花磁器の展示紹介は本県においては、初公開であり、初日から熱心な鑑賞者の姿が見られました。なかでも、上海博物館の丁義忠氏による週3回（火・金・日）の鑑賞教室は毎回多くの入館者が詰めかけ、熱心に解説を聞き入っていました。

また、県内各地から発掘された磁器の中から中国・景德镇窯産出と思われる磁片を会場に展



（鑑賞する宮崎市内の中学生）

示したことは、古くから本県と中国との間に文化の交流があったことを理解する場として有意義でありました。

青花磁器の展示は、どちらかといえば地味ですが、白地に鮮明なブルーで文様を描いた染め付けの名品は、いつまでも、鑑賞者の胸に残ることでありましょう。（永井）

自然観察会のお知らせ

夏休み神宮の森で



神宮の森、自然観察会（62年度実施）



① 神宮の森、の自然観察会

場所 宮崎市 神宮の森

期日 8月7日(日)(雨のとき・8月9日(火))

定員 100名(県下一円の小・中生)

② 採集作品の名前を調べる会

場所 宮崎県総合博物館

期日 8月28日(日) 10:00～15:00

内容 植物、昆虫、貝等の名前の分からないものについて調べます。

ご自由にご参加ください。

※問い合わせは「自然観察会の係」まで
(遠矢)

神楽面や歴史資料400点

高千穂町コミュニティセンター



高千穂神社の鉄造狛犬
(国指定重要有形文化財
鎌倉時代)



天神殿巻(安土桃山時代)

- 案内 JR高千穂駅から徒歩7分
宮崎交通高千穂営業所から徒歩12分
- 所在 〒882-11宮崎県西臼杵郡高千穂町大字
三田井 Ⅱ (0982) 72-6139

高千穂町には、神話、伝説の史跡や古代遺跡、古文書、民俗文化財などが数多く残されています。コミュニティセンターは、こうした文化遺産を収集、保管、展示し、郷土の歴史と文化を知ることから郷土愛を深め、特産品の開発研究、学習活動を通じてのコミュニティ活動の推進を図ることを目的に、昭和61年6月に開館しました。

建物は鉄筋コンクリート2階建て、延1,016㎡、外観は神話の里高千穂の文化施設らしく、古い民家風の千木をおいた屋根に萱壁造りを模し、正面には「夜神楽五穀の舞」の陶板がはめこまれています。展示テーマは「神話の里歴史とのふれあい」。1階は「民俗と文化」に関するパネルと資料約130点を展示、2階歴史コーナーには古代から宮崎県の誕生までの郷土の歴史パネルと地形模型、縄文生活模型、神楽面、柚木野人形、歴史考古資料約400点を展示しています。
(高千穂町・田尻)

~~~~~10月までの催しもの~~~~~

＜森の学習会＞

自然観察会	8月7日(日)
古代の集落と住居	8月25日(木)
採集作品の名前を調べる会	8月28日(日)
小・中学校の採集作品展	8/29～8/30
遺跡をたずねて(埋文講座)	10月上旬
宮崎県の城下町	10月13日(木)

＜展示コーナー＞

ギボウシの仲間	8/29～8/30
日向の植輪	8/29～8/30
大正・昭和の教科書	8/29～8/30
桶屋用具	8/29～8/30
下那珂貝塚(佐土原) 埋文センター	8/29～8/30
前原南遺跡(宮崎) 同上	8/29～8/30
児屋根塚遺跡 西都原資料館	8/29～8/30

＜美術展＞

平原美夫展	8/29～8/30
フランスの巨匠デュフィ展	8/29～8/30

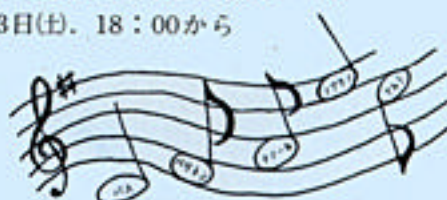
＜埋文センター「遺跡をたずねて」映写会＞

祭りだいこ・森と炎に生きる	8月27日(土)
和銅風土記・縄文時代	9月17日(土)

＜県民文化ホール＞

◆森のコンサート 無料

東京芸大生による音楽の夕べ、
8月13日(土)、18:00から



!!本県出身者による本格的な音楽をお楽しみ下さい!!

◆森の名画座 無料

8月19日(金) { 1回目10:00より
2回目14:00より

夏休み子供映画会、
チビッコ諸君、楽しい映画
が待っているぞ!!

①レンズマン

②キャプテン翼の交通安全

10月18日(火) 18:00より

①募 情

②エイズの知識と対策

(清武)



S.F.新世紀レンズマン